

投句欄 自由律の泉 ④

- 1 拳の中に涙を隠す 田中美太
- 2 おみやげだよと大根一本引き抜いてくれる 久光良一
- 3 食い縛り続けてすべてポロポロ 植田鬼灯
- 4 はにかんで赤い月 詠み替えて赤い月 檜 幽可
- 5 終活する人この指とまれ ひがん花 金澤ひろあき
- 6 止まったままの時計が地震跡の瓦礫を指してる 小山榮康
- 7 口に合わないメニュー黙って平らげる 無 一
- 8 ひとりぼっちの柿を食う 富永鳩山
- 9 たよりない夏の海でカレーライス 富永順子
- 10 奥入瀬に喝采沸く英語や中国語や 白松いちろう
- 11 なんだか今日は斜めに割ったチョコレート 佐川智英実
- 12 夕焼け空下駄をとばしたあの日にかえる 和崎はると
- 13 残り香だけの哀しい部屋 部屋慈音
- 14 一夜明けて悲しみの濁流 ちばつゆこ
- 15 情のうすい親の因果がサナギの子 松岡月虹舎
- 16 切絵のふくろう消えゆく三日月 野谷真治
- 17 嘘でも笑わない花でいる 荻島架人
- 18 弱音をはけない黒いひまわり月をみている 井尾良子
- 19 草むらから哀しい歌秋風しみる 佐瀬広隆
- 20 踏み石の陽だまりにふくらむキリギリス 平岡久美子
- 21 コスモスの中に煙になりに行く 棚橋麗未

## ● 泉 ③より 一句鑑賞

使い古しの体だけど使い慣れている

久光良一

▼感覚として、解る年になりました。

(田中美太)

▼鍋でも家具でも使い古したものは、愛着も味わいもあります。戸のガタガタも慣れたら、却って愛着がわきます。作者は自分の体をいとおしくおもっています。とても共感します。

(ちばつゆこ)

鳴き了えて落ちた蟬の天空

佐瀬広隆

▼自然の大きさの中のちっぽけな死が持つ意味を問うている。蟬の死を自分の死に置き換えてみた時、そこに何が残るのか、あるいは何も残らないのか、死によって問われる人の生き方を真剣にみつめている句である。

(久光良一)

▼蟬しぐれも終わりました。泣き終え地上に落ちた蟬の眼には初秋の青い空が大きく広がっているのでしょうか。

(白松いちろう)

人混みすり抜ける目線の交換

部屋慈音

▼人混みの中での出来事です、すれ違う人がどんな人だ

か解らないのですが、その瞬間のアイコンタクトも、結構心の片隅に残ることも、只、「眼付けた」と言われるのだけは、御免被りたいものですけど。

(檜 幽可)

土用入り長くなる鰻屋の「う」

野谷真治

▼昔の鰻屋は、たらいの中の鰻を見せ、客に選ばせていたそう。この句の「う」の字が鰻の「にょろ」とした形に見えてくるのが不思議で楽しいです。

(金澤ひろあき)

夜汽車に倣って私もこころのトンネルを通過する

植田鬼灯

▼夜汽車に倣った心とはどんな思いなのだろう。戦後の那須原の県境は重畳たる山脈が迫り、寂寞としていました。

(小山榮康)

せみしぐれせせらぎに流れている

大岳次郎

▼「せせらぎ」の音に混じって「せみしぐれ」。涼しさを感じさせられます。

(無 一)

金がない俺より先に逝くな

檜 幽可

▼素直に表現ができない男性の不器用さがよく伝わってきます。どちらにも長生きして下さい。

(佐川智英実)

強い風はさよならのしるし

富永順子

▼強い風と言えば、今年も台風が列島に爪痕を残してくれた。千葉県屋根のブルーシートのニュースを見るたびに心が痛む。16年前の台風で住めなくなって、下松市に転居した事を思い出します。風とはさよならをしたい。

(和崎はると)

灼ける中 風も黙祷する献花の列

金澤ひろあき

▼灼けるといふ言葉に献花の先にあつたことの重さが潜んでいて、風も黙祷するといふ言葉に厳しさが表わされている。献花の列の情景が伝わってきます。

(部屋慈音)

集中豪雨鉢からめだか溢れる

荻島架人

▼天変地異が日常になりつつある昨今、タイムリーな一句である。

(松岡月虹舎)

おばあさんのおしゃべり小鳥亭

平岡久美子

▼小鳥亭って、何処にあるのだろう。調べたら、八王子市みなみ野に、「ことり亭」があった。一度、「小鳥亭」を訪れてみたいと思った。

(野谷真治)

女が中途半端に残ったマニキュア

佐川智英実

▼女性も年を取るとだんだんおしゃべりに関心がなくなる、お化粧もあまりしなくなる。ましてマニキュアなどは。それ

でも作者は爪のお手入れはしたい。女が中途半端に残ったとは少し自虐的ではあるがいいえて妙である。(井尾良子)

仲良くしろよ手のひらの地球儀

富永鳩山

▼まったくその通りですね。今のままじゃ年寄りには死ぬに死ねない。日本だけではなく世界が心配だ。(平岡久美子)

### ●係より

次回も、皆様の作品一句と、今回の作品の感想をお寄せください。左記宛て、同封の投句用紙、またはメールにて。

〈送り先〉

〒193-0832

八王子市散田町2-58-4

平岡久美子

メール [kumiko801@wh-wing.net](mailto:kumiko801@wh-wing.net)

〈締め切り〉

2020年1月10日